育友会主催 就職懇談会

大学を挙げての支援体制

日南川裕一会長があいさつ

育友会（日南川裕一会長）主催の就職懇談会が6月29日、神田キャンパスで開かれ、「就職活動」を控えた3年次生を含む220人の出席があった。

日南川会長は、「『売り手市場』とは言われていますが、企業の厳選採用に変わりはありません。この懇談会を通じて、『就職活動』に関する認識を深め、また大学の支援体制を理解していただければと思います。初の試みである内定者によるパネルディスカッションでは、リアルな体験談を聞かせてもらえると期待しています」とあいさつした。

▶ 多くのご父母や3年次生が出席

自己分析は？ 自己PRは？ エントリーは何社？

内定者4人がパネルディスカッション

船橋慶洋就職課長をコーディネーターに4人の内定者によるパネルディスカッションが行われ、リアルな体験談を披露してくれた。4人の発言の要旨をお届けする。（氏名の後のカッコは学科、ゼミナール、内定先）

就職活動 成功への道

早めの対策が自信に

坂下亜悠さん（国際経済学科、常行敏夫ゼミ＝全日本空輸）

志望する業界は、英語力が求められていたので3年次の夏期休暇は、TOEIC®のスコアを上げるために猛勉強しました。インドネシア語を学んでいること、神社の巫女のアルバイト経験、大学の国際交流事務課で海外からの留学生のお世話をしたことなどを自己PRの材料にしました。

企業選びの基準は、女性が生き生きと働いていて、チームワークを生かせる職場です。内定は5月下旬にいただきました。教育実習の時期と活動時期が重なる可能性があったので、事前に先生に相談もしました。SPI対策を早めにしていたことは自信につながりました。「就職活動」は長期戦なので、体調管理に気をつけて頑張ってください。

▶ 自らの体験をわかりやすく伝えてくれた内定者の皆さん

「まじめさ」をアピール

菊池麻衣子さん（法律学科、小林俊明ゼミ＝りそなホールディングス）

10月になっても何をやればいいのかがわからなかったので、とりあえず就職課の講座に出てみました。業界研究をしたり、エントリーシートの書き方のアドバイスを受けたりしながら、意識を高めていきました。自己分析は、中学・高校時代を振り返り、良かったとき、悪かったとき、どんな気持ちだったかを表にしました。

アルバイト経験で、できなくても一歩ずつ着実に登っていくタイプだということが、そして友人との会話から「まじめさ」が私の強みであることがわかりました。エントリーは50社程度しましたが、強みを生かせる金融業界に絞りました。内定は4月上旬です。就職活動中は、孤独になりがちなので、ご家族の皆さんは、なるべく話を聞いてあげてください。就職課は、落ち込んだ時の「ストレス解消の場」としてお勧めです。

面接は本音で話す

岩永規央さん（法律学科、山田創一ゼミ＝日立製作所）

3年次の夏期休暇中はインターンシップを経験し、就職に対する意識を高めました。

システムアドミニストレータの資格を取得する勉強から、IT技術を生かして企業の経営を助ける仕事に興味を持ち、コンサルティング業界、IT業界を受けました。内定先の面接は3回で【集団→個別→個別】と2週間のうちに進みました。最終的に決まったのは6月初旬なので、活動期間は長い方だったと思います。

面接では、小手先のテクニックやきれいごとを言っても通用しません。本音で話さないと納得してくれないということが何度もありました。大学名に関係なく、他大学の学生も必死だということを、活動を通じて感じました。他人と比べず、自信をもって、自分らしく挑んでほしいと思います。

「親」は社会人の先輩

吉田誠さん（経営学科、高柳美香ゼミ＝エステー）

夏期休暇中は、サークル活動（サーフライフセービング愛好会）に集中しようと決めていました。中・高の部活体験やサークル活動から、「あきらめず最後までやりとげる」点を自己PRポイントとして挙げました。

就職活動は、いろいろな人と出会えるチャンスと考え、楽しむこと、常に前向きでいることを心がけました。100社にエントリーし、エントリーシート提出は40社程度です。

企業選びは自分の中で「これは譲れない」という優先順位を決め、ゼミでの学びを生かし、「目に見える」製品を扱うメーカーに絞りました。面接は若い世代から、親の世代、それ以上の世代になってきます。親には自己PRを聞いてもらったり、服装面でのアドバイスをしてもらったりと「社会人の先輩」として助けてもらい、感謝しています。

卒業生、企業の人事採用担当者からのメッセージも

「自分の言葉」で語ろう

高田　和男さん

卒業生の講演では、日本テレビ放送網㈱報道局解説委員会・解説副委員長の髙田和男さん（昭45文）が、採用面接を担当した経験から、「ハウツー本の優等生的発言では、面接官を納得させることはできない。個性豊かな人材が求められているいま、『自分の心』で感じたことを『自分の言葉』で伝え、相手に理解してもらうことが重要であることを教えてあげてほしい。これからの日本を支えていくのは、12年の歴史をもち、『報恩奉仕』の建学の精神と『質実剛健・誠実力行』の学風で学んだ皆さんのお子さんだという気概をもって接してあげてください」とアドバイスした。

企業が求める「未来力」

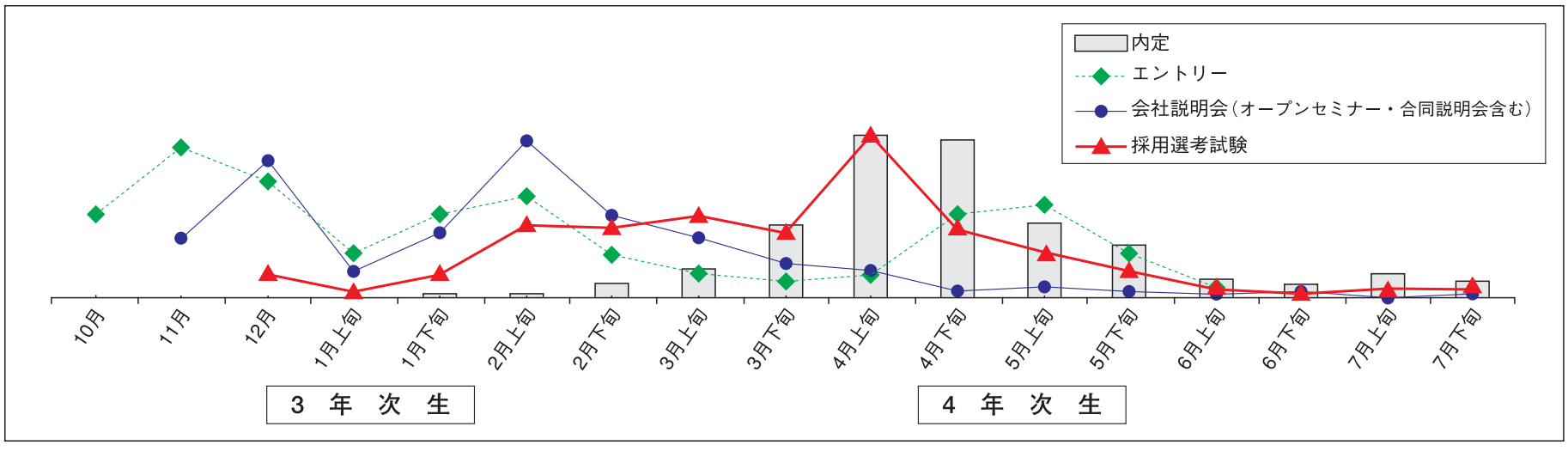
蔭山　陽洋さん

「企業が求める学生像」を講演したのは、松下電器産業㈱グループ採用センター・キャリアリクルーティング室長の蔭山陽洋さん。採用スタイルが、新卒採用から、キャリア採用・現地採用などの多様な採用に変化してきたと述べ、「中途採用に求める力は即戦力ですが、新卒採用に求める力は『未来力』。将来どれだけ力を発揮してくれるか、状況が変化しても、何度でも成果が出せる人を求めています。採用選考では、大学時代に実際にとった行動をピックアップし、行動を生み出すプロセスや周囲をどれだけ巻き込んだか、などを徹底的に聞きだします。就職活動は、自分と向き合う絶好の機会ですが、挫折と成長の連続ともいえます。自主性を尊重しながら、日々の些細な変化、進歩を受け止めてあげてください。弱みの克服よりも強みを伸ばすことのほうが大切で」と語った。

総括

船橋　慶洋課長

自分なりの基準 こだわりを持つ

4人の話から、会社選びでは自分なりの基準、こだわりを持つことが大切であること。経験・体験を語ることが採用担当者に一番、自分を理解してもらえること。長期戦のため、スケジュール管理、体調管理に留意すること。選考が重なる場合など、就職活動は常に決断の日々であること。そして、ご両親など異なる世代の方と話をすることで、自分自身を客観的に見つめることができるようになり、また家族が心のよりどころになっていたことがわかりました。本日の話を参考に、ご家庭で「就職」について、改めて話し合っていただければ幸いです。

就職活動スケジュール 2007年度（今春卒業生）